

事前面談実施・面談シート記入マニュアル

伝達事項は、メール文に記載すると関係者全員への共有漏れの可能性があります。必ず面談シートに記載してください。

前回からの追加点や変更点の箇所には電球のマーク「💡」を、補足説明等を加えた箇所や特に注意していただきたい箇所には感嘆符のマーク「!!」を付けています。

1. 面談実施における留意点

●面談の目的を伝える

面談の最初に目的の以下3点を学生に伝える

- ① **自己理解の機会**…目標設定、実行計画作成を行うための自己分析として活用
- ② **マッチング情報の収集**…志向性や適性、特性をマッチングに考慮
- ③ **企業への学生紹介用の情報収集**…学生の志向性や特徴などを企業にPR

※実習の目的は「社会人として必要な基礎能力を学ぶこと」。技術の習得や学科の学びを生かすことではない。学生が理解していない様子場合は、適宜説明をして軌道修正する。

●情報を収集する

面談シートに沿って情報収集することでマッチングに必要な以下の情報を収集

- ・志向性
- ・参考資料「面談指標」に基づいた適切な評価
- ・マッチングの際に配慮すべき事項（身体的または健康上（後遺症含む）、性格上配慮を要する事）

※実習先企業に渡す紹介シートの作成に必要な内容を収集する（参考資料4参照）

●判断に必要な根拠事例を収集する

客観的に判断できる事例や根拠を必ず聞き取り、面談シートに記入

●学生からの質問（実習やコーオプ演習Ⅱ（事前学習）に関する質問）に可能な範囲で回答する

回答できない場合は以下に学生が質問するように指導

- ・派遣に関する事（雇用契約および勤怠など）…パットコーポレーション
- ・授業（授業内容や課題など）や成績に関する事…大学のキャリアコーオプセンター

※質問を預からない（自分で質問させる）

※大学から配布されている「コーオプ教育 実習ハンドブック」に問い合わせ先の記載あり

2. 面談シート記入における留意点

●文体

面談シートに記載された文書はそのまま企業に提出する紹介シートに使用するため以下に注意する

- ・文末…「です・ます調」にする
「～とのこと。」「～（名詞）。」といった、体言止めは使用しない。

・箇条書きにしない

- ・敬語…学生に対して敬語は使わない

例：「ご自身は人見知りであるとおっしゃっていましたが～」

→「本人は人見知りであると話していましたが～」

- ・略語…略語は使用しない（例：バイト、ファミレス、コンビニ）

- ・漢字と平仮名の使い分け…カウンセラー間の表記の統一を図るため以下のように使い分ける

用語	補足
出来る できる	動詞や副詞の場合は、「できる」（例：～することができる、できるだけ） 名詞の場合は、「出来」（例：上出来、出来のよい作品、出来事）
下さい ください	動詞の場合は、「下さい」（例：飲み物を下さい） 補助動詞の場合は、「ください」（例：「ご確認ください」）
事 こと	形式名詞の場合は、「こと」（例：～することが好き、） 普通名詞の場合は、「事」（例：大事な事、出来事）
為 ため	形式名詞の場合は、「ため」（例：～のため、～するため） 普通名詞の場合は、「為」（例：為になる）
又 → また	接続詞の場合は、「また、～」
先ず → まず	副詞の場合は、「まず」
様 よう	助動詞の場合は、「～のようだ」・「～のように」
伺える 窺える	「～の様子がうかがえる」の場合は、「窺える」または「うかがえる」 「伺える」は誤り

●文字数

150字を大幅に超えるような長文にはせず、**各項目 100字～150字程度を目途**にまとめて記入

●構成

紹介シートの各PR項目でタイトルを付けることを想定し、まとまりのある内容を記入

冒頭の一文は、想定したタイトルに対する結論（答え）となるように記入

タイトル例：志向性、コミュニケーション、アルバイト、課外活動、趣味、印象、ものづくり

●関連する内容は一項目にまとめて記入

同じ内容を重複して複数項目に記入しない

●客観的に判断できる事実を記入

「マッチングに役立つ」「紹介シートでアピールできる」といった観点に基づき判断事例を記入

※カウンセラーの推測による主観的な表現は避け、事例から客観的に判断できる内容や事実を記入。

例1：「アルバイトではマネージャーを任されているので、面倒見がよいことがうかがえます。」

→マネージャーを任されているから面倒見がよいとは判断できない。なぜマネージャーを任されたのか、マネージャーとしてどのように後輩の面倒を見ているのかなどを聞き取って記入。

例2：「非常に優しい性格で人の役に立ちたいと思っています。」

→なぜ「優しい性格」と言えるのか、また「優しい性格」というのが本人の自覚なのかカウンセラーが客観的事例・根拠から判断したものなのかがわからない。必ず事例とともに記入。

やむを得ず（学生が説明できる事例が見つけれられないなど）本人の自覚のみである内容を記入する場合は、「非常に優しい性格であると自覚しており、人の役に立ちたいと思っている。」などと、自覚のみであることがわかるように記入。

例3：「何事にも真面目に取り組み、主体的に行動できる様子がうかがえます。」

→どのような様子や話からそのように判断するのか、同じ項目内に客観的に判断できる事例を記入。

● **カウンセラーによる評価を記入**

各評価は学生の自己評価ではなく、客観的事例・根拠に基づいてカウンセラーによる客観的な評価を選択

● **アルバイトや部活、サークルの内容は具体的に記入**

エントリーシート①で記載されていても、面談シートの記載内容だけで意味が通じるように記入

例：「アルバイトでは接客を担当し～」 → 「喫茶店のアルバイトでは接客を担当し～」

● **面談シート内に一貫性があること**

内容に矛盾がないこと、必要に応じて読み手が理解できるよう補足

例：コミュニケーション事例欄の内容「面談では緊張している様子もなく、自分の気持ちをしっかりと伝えていた。」

印象欄の内容「謙遜しがちで自己評価が低く、自分の話をすることがあまり得意ではない様子。」

→整合性がなく、同一人物ではないように受け取れる

● **固有名詞の記入の注意**

・ 特定される固有名詞は使用しない…アルバイト先名称で場所が特定される場合は固有名詞を記入しない

・ 一般的な固有名詞は使用してよい…誰もが知っていて業務内容が伝わりやすい場合は記入可能

例：マクドナルド、スターバックス、ユニクロなど



● **活動時期や期間の記入**

西暦ではなく、学校種別と学年等の表記で記入

面談実施時期から実習先企業に紹介シートを渡すまでに数か月あるため、面談時を起点とした表記にしない
企業に学生像をイメージさせる目的のため西暦は使用しない

良い例	好ましくない例
「アルバイトを大学入学時から続けており～」 「アルバイトを大学1年生の5月から続けており～」	「2022年の4月からアルバイトを始め～」 「1年前からアルバイトを始め～」 「アルバイトを約1年間続けており～」 「アルバイトを昨年5月から続けており～」



● **紹介シートに掲載するにあたり適切ではない用語は記入しない**

希望する実習内容を特定してしまう用語（各エントリー領域名、領域希望順位）や実習先企業が把握していない可能性のある用語（社会人基礎力診断テスト、面談シートの各項目名）など、適切でない用語は記入しない。

例1：「実習では生産管理チャレンジ領域に携わりたいと意欲的です。」

→希望する実習内容を特定してしまう表記は、「実習意欲の判断と根拠事例欄」には記入しない

例2：「社会人基礎力診断テストでは主体性が低い結果であったので～」

→社会人基礎力診断テストについて実習先企業の方が把握していない可能性があるため、「主体性がないという自覚があるので～」などと表記

例3：「「その他志向性」の欄にも記載しましたように～」

→紹介シートにこのまま掲載することは不適切であるため、この欄のみでも分かるように記入

例4：「コーオプ実習を表す用語として「研修」「インターンシップ」

→「コーオプ実習」または「実習」と表記



● **提出前確認**

・ **紹介シートの作成に必要な内容をすべて記入できているかを必ず確認**

・ **誤字脱字がないかを必ず確認**

・ **評価や可否、有無の選択漏れがないかを必ず確認**

・ **面談シートの「その他PR」、「懸念点」、「ES①変更点」以外の項目は、必ず記入**

※「その他PR」に記入できる内容がない場合は、その他の項目において十分な内容を記入

・ 学生のパーソナリティを表現する場合の適切な表現になっていること

※男女差やLGBT等性的マイノリティ（性的指向及び性自認に基づく差別）などの特定につながるような表現は避ける。

※詳しくは厚労省の『公正な採用選考の基本』を参照

<https://www.mhlw.go.jp/www2/topics/topics/saiyo/saiyo1.htm>

3. エントリーシート① ヒアリングポイント

学生が事前に提出している「エントリーシート①」の内容を確認しながら、面談を進める。

- ・赤の枠内については、**誤りがないかを特によく確認**
- ・**変更がある場合は、面談シートの「ES①変更点」に必ず記入**
- ・**面談時回答が最終情報・保留は認めない**

面談と並行してマッチングを行っているため、「実家からの実習」の可否、「寮や宿舎への宿泊を伴う実習」の可否、「エントリー領域」の希望順位について迷っている場合であっても、面談時の回答が最終となることを伝え保留を認めない

※宿泊に関する費用については参考資料「事前事後面談・電話フォローQ&A」を参照。

東京工科大学

プログラム領域 エントリーシート ①

今後、実習参加に必要な重要書類上の確認や、実習中にキャリアカウンセラーから状況確認の電話をかけるため、正しい電話番号が必要です

自宅から一番近い駅を確認。「大学に通学するのに便利な駅」ではありません

実家からの実習や宿泊を伴う実習の可否は、必ず面談内で決定してもらってください(保留にしない)。ES①での回答内容から変更する場合は、面談シートの「ES①変更点」欄に記入してください。

面談内で引越し予定の申告があった場合で、コーオプ演習Ⅱの授業で「最寄駅・通学手段確認書」を提出後は、大学のキャリアコーオプセンターにも報告するよう伝えてください

課外活動等の記載がある場合は、以下の観点で詳細を必ず聞き取って「その他PR」欄など適切な項目に記入してください。

- ・チームや団体内での活動内容や仕事内容
- ・担当や役割

※記載がない場合は、大学以前の情報も含めて確認してください。

取得した資格の話が面談内で出てきた場合は、ES①に記載されているかを必ず確認してください。記載されていない場合は、面談シートの「ES①変更点」欄に記入してください

チェックが入っているものについては興味がある理由も聞いて、面談シートの「その他の志向性」欄に記入してください

一見関係がないと思われる興味であっても、志向性が判断できる場合があるので具体的に聞いてください。例えばゲームが趣味であっても、そのゲームが好きな理由や取り組み方から志向性がわかることがあります

⑩住居形態 <input checked="" type="checkbox"/> 実家 <input type="checkbox"/> 下宿	⑦現住所	⑥〒 ()	⑤携帯電話 ()	④学科	③氏名	②フリガナ
※上記⑩で「下宿先」を選択した場合に回答(現住所が「実家」の方は回答不要)						
⑪実家からの実習 <input type="checkbox"/> 可 <input type="checkbox"/> 不可	⑫線	⑬駅	⑭寮や宿舎への宿泊を伴う実習は <input type="checkbox"/> 可 <input type="checkbox"/> 不可			
エントリー領域	⑮第一希望: ものづくり技術チャレンジ ⑯第一希望: ビジネスチャレンジ	⑰第二希望: 生産管理チャレンジ ⑱第二希望: 設計・開発チャレンジ				
⑲領域志望理由	すべての領域の希望順位とその理由を必ず書いてください					
■My Data(マイ データ 回答欄)						
⑳研究したいテーマ	決まっていない学生が多いですが、現時点で興味がある分野や方向性を聞いてください。最終決定である必要はありません					
㉑得意な科目	高校までの教科・科目ではなく、大学の専門科目が理想です			㉒苦手な科目		
課外活動	㉓所属団体 ㉔活動内容 ㉕職種 ㉖仕事内容					
アルバイト	㉗名称 ㉘活動内容					
部活・サークル	㉙名称 ㉚活動内容					
その他の活動	㉛名称 ㉜活動内容					
プログラミングスキル	1:授業で履修レベル 2:自主開発経験あり 3:経験なし ※下記()内に番号を回答 ①C() ②C++() ③C#() ④Java() ⑤PHP() ⑥VBA()					
㉟資格	保有資格が多い場合や工作機器・電子機器の経験が多い場合は、出身高校が工業系かを聞いてください(専門学校からの編入も含む)					
経験	㉞工作機械使用経験: <input type="checkbox"/> ボール盤 <input type="checkbox"/> 旋盤(汎用) <input type="checkbox"/> 旋盤(NC) <input type="checkbox"/> フライス盤(汎用) <input type="checkbox"/> フライス盤(マシニングセンター) <input type="checkbox"/> 経験なし					
	㉟CAD/CAM経験: <input type="checkbox"/> AutoCAD(2D) <input type="checkbox"/> AutoCAD(3D) <input type="checkbox"/> CATIA <input type="checkbox"/> SolidWorks <input type="checkbox"/> 経験なし ④上記以外のCAD/CAM経験()					
製作物 (プログラミング、 工作、メディア等)	㊱授業 () ㊲自主製作 ()					
	④興味のあるものづくり(最低3つは選択) <input type="checkbox"/> 自動車・バイク <input type="checkbox"/> 航空機 <input type="checkbox"/> ロボット <input type="checkbox"/> 産業用機械 <input type="checkbox"/> 総合電機・家電 <input type="checkbox"/> OA機器 <input type="checkbox"/> 電子部品 <input type="checkbox"/> 精密機器 <input type="checkbox"/> 計測機器・検査装置 <input type="checkbox"/> 光学機器・時計 <input type="checkbox"/> 通信機器 <input type="checkbox"/> 音響機器 <input type="checkbox"/> 福祉関連機器 <input type="checkbox"/> 医療機器 <input type="checkbox"/> 軽工業・日用品 <input type="checkbox"/> 金属加工 <input type="checkbox"/> IT <input type="checkbox"/> 設備エンジニア ④上記以外に興味があるものづくり()					
㊳趣味						

4. 各項目の確認・記入について

◆領域希望順位・理由

- ・あくまでどのような領域に“興味”があるのかといった観点で聞く
「実習で何をやりたいのか」という観点での聞き方はしない。
マッチングは300名の工学部生の全体最適で行うため、広く領域の興味を確認し特定の業務に縛らない。また、特定の領域だけの業務に留まらず企業によってはすべての業務に携わる可能性もある。
- ・順位と理由（どのような志向性に基づくか）をすべてに記入
第一・第二希望については「前向きな」理由を、第三・第四希望については順位が低くなる理由を（前向きな理由もあれば併せて）聞き取る。
紹介シートでアピールできるような経験が理由となる場合は、その旨を簡潔明瞭に記入したうえで、適切な項目にも詳細を記入。
- ・特定の領域や業務への拘りが強い学生の対応
実習の目的を伝え、改めて希望領域順位と理由を聞き取る（理由が非常に大事）。
- ・領域内容の理解が低い学生の対応
参考資料①「実習コースについて」や②「実習コース事例」を使用して、噛み砕いて説明し、そのうえでの理由を聞き取り、希望領域順位を変更したい場合は、変更の旨を「ES①変更点」に記入。
ビジネスチャレンジ以外はものづくりに関わり、“手を使うか”“全体を見渡すか”“考えるか”といった観点で考えるとわかりやすい。

領域ごとの注意点

「ものづくり技術チャレンジ」が第一・第二希望の学生

→出身高校が「工業系」であるかを確認

（専門学校からの編入も含めて、機械・電気電子・情報といった専攻も確認）

「資格」「経験」で保有資格が多い場合や工作機器や電子機器の経験が豊富な場合は、必ず確認。

該当する場合は、面談シートの[ものづくり経験]に事例を交えて記入。

例①:「高校は工業高校の機械科出身のため、授業で一通りの工作機械操作の経験があります。」

例②:「高校は電気電子科出身で、電子回路実習でオシロスコープによる通電テストの経験があります。」

→ES①の「課外活動」においてロボコン・ロボット研究部・EVプロジェクトの経験がある場合は、

チーム内での担当や役割を具体的に確認

該当する場合は、面談シートの[ものづくり経験]や[その他PR]などに事例を交えて記入。

例:「『高校ロボコン』に参加経験があり、主に機械システムを担当して設計から組み立てを担当していました。」

→ものづくり経験が乏しい場合は、仕事内容を理解しているか確認

「実際に手を使って作業をする」「工場などの現場で作業をする」ということを理解したうえで

希望しているのかを確認し、思い違いがあり順位の変更する場合は「ES①変更点」に記入。

「設計・開発チャレンジ・コース」が第一・第二希望の学生

→「開発」という語句から表層的に研究開発職をイメージして、実習で体験できると考えている様子の場合
は、実習の実情・現実についてカウンセラーから話をしてイメージを修正

例) 学生:『メーカーで製品の「設計」or「開発」or「研究」or「企画」を体験したいです』

カウンセラー:『実習生に実製品の開発そのものさせることはほぼなくそれぞれの補助的な業務や
その部署での実習（あるいはそれらを含む実習）となる』

『営業～開発～製造～管理は全て繋がっているので、開発に直結するプログラムでなくとも異なる工程から開発に必要な観点を学ぶように努めること』

『実習からすべての社会人に求められるコミュニケーションの取り方、取組姿勢は学べるので学ぶ視点は広く持つこと』

記入事例 ※何に興味があるのか具体的に伝わる内容

	良い例	好ましくない例
ものづくり	<p>①幼少の頃からプラモデル作成が趣味で、黙々と手を動かして作業する事が好きです。現場で実際にどのように作業が行われているかに興味を抱いています。</p> <p>②自分で試行錯誤して新しいものを作ることは苦手であるが、決められた作業にコツコツと取り組むことが好きです。</p>	<p>①ものづくりが一番おもしろそうなので、やってみたいと思っています。 →どういう点がおもしろそうなのかの理由が必要。</p> <p>②他の領域よりはよいと思ったので、第一希望にしたとのことです。 →どういう点で他よりよいと思うのかの理由が必要。</p>
生産管理	<p>①スーパーで品出しのアルバイトをしていることから、常に効率化や合理化を考えている自分の特性とマッチしていると感じたからです。実習では、ものづくりの現場ではどのようなになっているのかを体験したいと考えています。</p> <p>②将来は商品企画の仕事をしたと思っており、ものづくりの流れの全体像を見る経験が役立つのではないかと感じたためです。ものづくりにおける、合理的・効率的な考え方も学びたいと考えています。</p>	<p>①生産管理の業務に対するイメージがつかなかったため第三希望としたとのことです。 →参考資料①「実習コースについて」や②「実習コース事例」を使用し、噛み砕いた表現での説明が必要。そのうえでの理由を聞き取り、もし希望領域順位を変更したいと申し出があれば、変更の旨を「ES①変更点」に記入。</p> <p>②ビジネスも設計開発も自分には向いていなく、やりたくもないと思っています。生産管理ならできそうかと思っています。 →どうしてビジネスや設計開発は向いていないと思うか、なぜ生産管理ならできそうなのかの理由が必要。</p>
ビジネス	<p>①将来はものづくりに携わりたいと考えていますが、そのためにはユーザーのことを知る必要があると考えており、経営側と技術者をつなぐ立場について学びたいと考えています。</p> <p>②人と話すことに苦手意識を持っていますが、顧客との打ち合わせに興味があります。どのような仕事であってもコミュニケーション力は必要だと思うので、この機会に克服したいと考えています。</p>	<p>①未経験な業務に挑戦したいと思っています。 →未経験な業務になぜ挑戦したいと思うのかの理由が必要。</p> <p>②コミュニケーション力に自信がないとのことです。 →実習で経験を積んで克服したいという理由からだと思われるが、具体的にどう克服したいのか、なぜ克服したいのかなどの詳細が必要。</p>
設計開発	<p>①将来は開発の仕事に携わりたいと考えていることから、新しい製品を作り上げる過程について学びたいと思っています。販売されている製品がどのような過程を経て生まれたのか、また改良はどのようにしてなされたのかなど、現場で学ぶことが将来に役立つのではないかと考えています。</p> <p>②問題を解決するために試行錯誤することが好きで、日頃からアイデアを出すことが多いです。0から自分で考えて世に価値のある製品を生み出したいと考えているので、現場では社員同士がどのような対話をしながら製品づくりに関わっているかを見て吸収したいと考えています。</p>	<p>①自分で考えて何かを作ることが得意なので、実習では新製品の開発に携わりたいとのことです。 →新製品の開発に直結する実習は難しいことを、面談時に伝え、実習の目的を伝えうえで、なぜ設計開発に興味があるのかを聞き取る。</p> <p>②将来は設計開発の仕事に就きたいと思っており、実習ではロボットの設計開発の企業を希望しています。 →①と同様。また、特定の分野の希望も受け付けられない。</p>

◆その他の志向性

- ・実習の希望領域に捉われずに、ES①に記入されている「研究テーマ」や「得意科目」、「興味のあるものづくり」から、その学生の志向性を聞き取る。ただし、事柄のみの列記は不可。
「興味のあるものづくり」については、選んだ理由を確認すると志向性の詳細を得られるケースが多い。
- ・複数の事柄について記入する場合は、段落を分けたいでそれぞれの内容についてまとまりのある内容を記入。
- ・行動や性格的な志向性ではなく、物事に対する志向性（興味・関心）を聞き取る。将来の職業には結び付かない志向性も聞き取ることで、次の「将来像と将来像に向けて行っていること」の内容とで書き分けられる。
- ・紹介シートのPR項目でタイトル「志向性」として掲載することを踏まえ、冒頭の書き出しは「～に興味があります。」「大学での研究テーマは～を考えています（予定しています）。」「～の科目が得意です。」などとする。
※「将来像（将来の進路や職業）」については「将来像と将来像に向けて行っていること」欄に記入し、志向性（興味・関心）」とは区別する。
※「〇〇のサークルで△△に取り組んでいます。」で始まるような課外活動の内容は、「その他PR」欄に記入。

記入事例

良い例	好ましくない例
<p>①大学での研究テーマは電子デバイスの分野を考えています。スマートフォンや電気など日常生活に身近にたくさんあり、今後も開発において期待される分野だからということが理由です。大学の授業でも電子回路の講義に力を入れているとのこと。</p> <p>②大学の授業では微分積分と電気磁気学が得意です。小学生の頃から計算が好きで、一つの正解を求めるという過程に楽しさを感じている様子です。また、物理における“現象”に面白さを感じていて、特に屈折や反射といった“光”に興味を持っています。</p> <p>③音響機器と医療機器分野に興味があります。音響機器は、趣味が音楽鑑賞であることから、イヤホンを自分でよいものを作って世に出したいと思っているとのこと。また、元々生物系が得意で薬剤師をめざしたいと考えたこともあったので、医療機器への興味もあります。</p>	<p>①電子デバイスの分野を研究したいです。スマートフォンや電気など日常生活に身近にたくさんあり、今後も開発において期待される分野だからということが理由です。大学の授業でも電子回路の講義に力を入れているとのこと。</p> <p>→紹介シートのPR項目でタイトル「志向性」として掲載することを考えると、一文目の「～研究したいです。」という表現は不適切である。また、大学での研究のことを指しているのか、将来像（将来の進路や職業）を指しているのかも不明瞭である。将来像ではないのであれば、志向性であることが明確となる表現で記入。</p> <p>②得意科目はプログラミングで、興味のあるものづくりはOA機器や通信機器、音響機器です。</p> <p>→複数の事柄を列記するのではなく、なぜ興味があるのかななどを事柄ごとに理由を聞き取って記入。</p> <p>③物事全般を通して、現状を改善していくことに志向性を感じられます。飲食店のアルバイトでは、回転数をよくするためにどうしたらよいかを考え、店長に提案して採用された経験があります。</p> <p>→物事に対する興味・関心ではない。記入する場合は、「印象」「その他PR」などの適切な項目に詳細を記入。</p> <p>④中学・高校では野球部に所属しており、スポーツは一般的に好きで得意とのこと。</p> <p>→このままでは紹介シートでアピールできる志向性ではないが、活動の様子からアピールできるものがある場合は、「その他PR」などの適切な項目に詳細を記入。</p>

◆将来像と将来像に向けて行っていること

・将来像と、その将来像に向けて行っていること（行う予定のこと）の両方を聞き取る。



・紹介シートのPR項目でタイトル「将来像」として掲載することを踏まえ、冒頭の書き出しは「将来は～に携わりたいと考えています。」「～の職業に就きたいと考えています」「将来は～について研究したいと考えています。」などとする。

※「志向性（興味・関心）」については「その他の志向性」欄に記入し、「将来像（将来の進路や職業）」とは区別する。

・取得予定の資格について記入する場合は、将来像との関連性が分かるように取得の目的や理由も記入。

・資格や検定名正式名称を確認して記入する。

正式名称例：乙種第4類危険物取扱者、第二種電気工事士、第三種電気主任技術者、実用英語技能検定2級

・「特になし」と答える学生もいるが、その場合は現在時間をかけて取り組んでいることについて聞き取る。必ずしも、資格取得に向けた勉強など明確な目標に向けた行為でなくてよい。

記入事例

良い例	好ましくない例
<p>①プログラミング関係の仕事に就きたいと考えています。そのため、2年生の後期中の取得をめざしてITパスポート試験と情報処理試験の勉強に励んでいます。関連することは自主的にニュースでチェックをし、理解をより深めるために書籍やネットでも調べています。</p> <p>②将来は音響機器や家電などの機械の開発をしたいと考えています。そうした将来に向けて、まずは8月に実施される第三種電気主任技術者の取得をめざして勉強中です。</p>	<p>①プログラミングに興味があります。そのため、2年生の後期中の取得をめざしてITパスポート試験と情報処理試験の勉強に励んでいます。関連することは自主的にニュースでチェックをし、理解をより深めるために書籍やネットでも調べています。</p> <p>→紹介シートのPR項目でタイトル「将来像」として掲載することを考えると、一文目の「～興味があります。」という表現は「志向性」をタイトルとするPRとの区別がつかないため不適切である。志向性（興味・関心）と将来像（将来の進路や職業）のいずれなのかが明確となる表現とし、該当する項目に記入。</p> <p>②将来はロボットの設計開発に携わりたいと考えています。資格は乙種第4類危険物取扱者を取得したいと考えています。</p> <p>→将来像と資格の関連性が分かりづらい。関連性についても聞きとり、客観的に分かるように記入。将来像とは関連がなく、あくまで資格取得についてのエピソードという場合は「その他PR」欄に記入。</p> <p>③まだ将来像が描けていない様子で、特に何もしていないとのことです。</p> <p>→漠然として決まっていない学生が多いが、現時点で興味を持っていることや時間をかけて取り組んでいることを聞き取って記入。</p>



◆面談時のコミュニケーション力の判断と根拠事例

●評価…面談指標の「ビジネスコミュニケーション力」に記載されている**評価基準（受け答えの仕方、伝え方など）を参考にして選択**



●評価の理由…**面談での状況に基づいた判断事例を必ず記入。**

- ・ **会話のキャッチボールができるか**を判断
具体的には、「イエス、ノーだけでなく答えが返ってくるか」「大人と会話できるか」「抑揚をつけて話せるか（例えば、趣味の話を振ったときに楽しそうに話せるのかなど）」といった観点で判断して記入
- ・「コミュニケーション力がある」という表現だけはNG…具体性がないため、適切な別の言葉で置き換えるか、補足説明を添えて具体的に記入
- ・ 学生が話す過去のエピソードからの判断…記入してよいが、面談での状況から判断できるコミュニケーション能力と明らかに関連がない内容は、「その他PR」欄に記入
- ・ 社会人基礎力診断テストの結果…自己評価であり客観的評価ではないため、明確な事例・根拠が面談時に判断できた場合のみその内容を記入
- ・ 学生一人で実習に行かせるには懸念があると思われるコミュニケーションの場合は、「懸念点」欄にも併せて詳細を記入

記入事例

良い例	好ましくない例
<p>【評価A】 面談での問いかけに対し、<u>質問の意図を理解して、自分の考えや経験をわかりやすく伝えることができていました。</u>ものづくりへの興味や将来像など志向性に一貫性が感じられ、実習に対しても課題を踏まえた目標を考えたうえで具体的に説明することができていました。また、塾講師のアルバイトでは親子面談も担当しており、言葉の大切さや伝わり方を日頃から意識できている様子うかがえました。</p> <p>【評価B】 面談において、相手の意図を聞き取り、何を聞きたいのか瞬時に理解し、<u>質問に対して的確な返答ができていました。</u>児童会の役員や部活の副部長、学級委員などリーダーの立場で主導してきた経験もあり、皆にわかりやすく説明することの難しさを体感し、言葉の選び方や話し方を学んだとのことで、<u>わかりやすく伝ようとする意識が身に付いている様子うかがえました。</u></p> <p>【評価C】 人見知りをするタイプとの自覚があり、<u>自身からの発信は少ないものの、面談ではこちらの質問に対して短い言葉で答えながらも、一生懸命に答えようとする様子うかがえました。</u></p> <p>【評価D】 面談において、<u>相手の目を見ずに下向き加減で話す傾向がありました。</u>質問に対し、<u>一生懸命に伝えようとする思いは感じられましたが、答えるまでに時間を要し、黙り込んでしまう場面が多かったです。</u></p>	<p>①中学・高校時代はサッカー一部に所属し、高校では部長を務めていたとのことで、コミュニケーション力の高さが窺えます。 →<u>面談での判断事例の記入が必ず必要。</u> 課外活動の様子からも判断できる場合は、客観的に判断できる事例を必ず入れたうえで補足として記入。 コミュニケーション力とは関連性のない課外活動の内容は、「その他PR」に記入する。</p> <p>②きちんと話はできていますが若干緊張気味。周囲とも問題なくやっています。 →一文目は、「きちんと話ができる」の根拠が必要。<u>面談時の様子を詳しく記入。</u> 二文目は、学生の自覚としてなのか面談の様子からの客観的判断なのかが不明。よって、紹介シートにおいてどのような表現でアピールしたらよいか判断がつかない。</p> <p>③人見知りのようで、言葉数も少なく的確を射た回答もできていません。 →<u>良い面の記入も必要。</u>「笑顔で話すことはできていた」「一生懸命に伝えようとする姿勢は見られた」など、どうにか良い面も見つけて記入。</p>

◆実習意欲の判断と根拠事例

●評価…面談指標の「取り組み姿勢」を参考にして選択



●評価の理由…実習に対する意欲を聞き取る。実習の目的である「社会人として必要な基礎能力を学ぶこと」を踏まえ、どのような企業、業務内容にも相応しい内容を聞き取る（必ずしも実習先と合致しているとは限らないため、特定の業界や業務内容に対する意欲の記入は不可）。

不適切な事例：

「大学で学んだ知識や技術を活かしたい」

「大学で勉強していることが、現場でどれくらい役に立つのかを知る機会としたい」

「自分の強みであるコミュニケーション力が社会で通用するかを試したい」

「将来は経営者になりたいので、ビジネスチャレンジ・コースで経営について学びたい」

●評価の概略…目的意識を持って何をチャレンジしたいか語れる→A、前向き→B、こちらから言わないとやる気にならない→C

・評価Aの判断…自分の課題や目的を踏まえている必要がある。具体性がなく、ただ「前向き」「興味を持っている」などという場合は、評価はBが適切。

・評価Dの判断…評価Dと判断するほど、実習に行かせるリスクが感じられる場合は、「懸念点」の欄にも併せて記入。何かしら前向きな理由を引き出すようお願いしたい。

●記入の注意



・紹介シートに必ず掲載する内容となるので、前向きな意欲を聞きとって記入する。

・実習先企業に対する表現は敬語や丁寧語を適切に使用し、内容においても失礼のない表記とする。

例1：「実習では与えられた仕事をしっかりとこなしたいと話しています。」

→「与えられた」「(仕事を)こなす」という表現は失礼。「実習ではしっかりと仕事に取り組みたいと話しています。」など、学生が話した内容とニュアンスが変わらない表記に調整する。

例2：「社会人としてのコミュニケーションの取り方を企業の人から学びたいと話しています。」

→「企業の人」は実習先企業の方を指すので、紹介シートに掲載する表現としては適切ではない。「社会人としてのコミュニケーションの取り方を学びたいと話しています。」など、表記を調整する。

記入事例

良い例	好ましくない例
<p>【評価A】</p> <p>コーオプ実習があったことも大学を選択する際に決め手になったと話しており、<u>前向きで意欲的な姿勢が感じられます</u>。苦手と考えている対人スキルと優先順位を付けられるように積極的に取り組みたいと、<u>自分の課題を踏まえた目標を見出すことができています</u>。</p>	<p>①溶接に興味を持っているので、実習では是非経験したいです。溶接技術は構造物を作るために必須の技術であると考えています。エントリー領域の希望理由が自分の目的に即しており明確で、意欲的に取り組みます。</p> <p>→意欲は感じられるが、実習の目的を理解していなく、自分の課題や目的を踏まえていないので評価はBが適切。特定分野への強い興味を話す学生には、実習の目的をきちんと伝えて軌道修正が必要。そのうえで、改めて実習に対する意欲を聞き取って記入。</p>
<p>【評価B】</p> <p>これまでに経験したことのない仕事へのチャレンジが楽しみであるとしています。<u>自発的かつ明確な課題感や目的があるわけではないですが、実習を活用して、学びや成長につなげたいとする姿勢を感じます</u>。</p>	<p>②将来おもちゃメーカーに就職し商品開発や企画職に就きたいという夢を明確に持っており、将来に役立つような現場で実習を行いたいと意欲的です。</p> <p>→意欲は感じられるが、実習の目的を理解していなく、自分の課題や目的を踏まえていないので評価はBが適切。自分の将来の進路に役立てることを目的として話す学生には、実習の目的をきちんと伝えて軌道修正が必要。そのうえで、改めて実習に対する意欲を聞き取って記入。</p>
<p>【評価C】</p> <p><u>与えられた仕事はきちんとこなしたい</u>と話しており、<u>真面目に業務を取り組むことはできる</u>と思われそうですが、<u>受け身な印象で多くを学びたい</u>という意欲は感じられません。</p>	<p>③多趣味であり、何事にもすぐに興味を持って行動を起こすとのことです。最近では特にトレーニングにはまっており、ジムに通っています。</p> <p>→ここで聞き取ってほしいことは「実習に対する意欲」であり、日常における意欲ではない。</p>



◆ものづくり経験の判断と根拠事例

制作物の内容の詳細だけでなく、**日頃から手先を使ったものづくりの経験が豊富なのか、ものづくりに関心があるのか**が判断できるよう聞き取りと記入をする。

●評価…面談指標の「ものづくりへの拘り」「注意力」「手先の器用さ」を参考に選択。

●ものづくりの評価の理由

- ・実際に作った事例…**拘り具合や仕上がり具合、製作時期・期間、頻度など客観的に判断できる事例や根拠を必ず記入。**
ものづくり経験が全くない場合は、その旨を記入（未記入としない）。
- ・複数メンバーでの制作の場合…その中での個人の役割や製作内容を聞き取って記入。
- ・経験が乏しくて記入する内容がない場合…評価の理由がわかるようにその旨を必ず記入。
- ・経験が乏しくものづくり領域が第一・第二希望の場合
…なぜものづくりに携わりたいのかなど、ものづくりに対する思いを必ず聞き取る。また、「実際に手を使って作業する」ことを理解しているかの確認し、「実際に手を使って作業ができそうか（経験はないが細かい作業が好き、経験はないがコツコツと同じ作業をすることが好きなど）」を判断できるような聞き取りを行って記入。
- ・授業内での制作…**小学校や中学校の授業内で制作したものや、高校以降の授業内で制作したもので特筆すべき内容がない場合は、記入不要**（例：「中学の授業で本棚制作」、「大学の授業でケント紙を使用した橋の作成」など）。
- ・応用科学科の学生の場合…（後期のみ）応用化学科の学生はものづくり経験が少ない。その場合は実験のどんなところが楽しいか（例：器具を使うのが楽しい、データ取りが楽しい）など、実験のことを聞く。

●ものづくりの評価の概略

- ・評価Aの判断…評価Bに値する事例に加えて**他者からの評価が得られている事例も必要**であり、その旨の記入が必要
- ・評価Cの判断…ものづくり経験が豊富でも、仕上がり具合や拘り具合がわからない場合は、評価はC。

●注意力と手先の器用さの評価

- ・「注意力」…**機械操作や刃物等の危険を伴う動作を想定した状況での注意力。**
注意力が「ある」または「ない」と評価する場合は、客観的に判断できる事例や理由の記入が必要。
- ・「器用」であると評価する場合…**細かい作業が得意であり好きであるといったことが判断できる事例や理由が必要。「不器用」と評価する場合も、それが判断できる事例や理由の記入が必要。**

記入事例

良い例	好ましくない例
<p>【評価A】</p> <p>プラモデル制作では、やすりを細かく行ってバリを取ったり、時間をかけて塗料を綺麗に吹きかけるなど、かなり念入りに制作している様子が窺えました。パーツも自ら購入し、切ったり溶かしたりしているとのこと。美術の授業では、絵画で細かい模様を描いていた点や、細部に拘って描いている点を先生から度々評価されました。</p> <p>【評価B】</p> <p>自分で部品を集めてPCを製作した経験があります。自主製作パソコン5台のうち4台はジャンク部品を集めて製作し、メインPCでは、本体、キーボード、マウスにLEDを装着させ光らせるようなカスタマイズを行ったとのこと。</p> <p>【評価C】</p> <p>最近のものづくり経験はほとんどない様子ですが、幼少期にキットでのプラモデル作成経験があり、手を動かして作業することは好きとのこと。</p> <p>【評価D】</p> <p>授業以外でのものづくりの経験は特になく、手を使ってものを作ることに興味がない様子です。</p>	<p>①趣味で演奏しているエレキギターは、ジャンク品を購入し、自分で配線などを整備して使えるようにしたものです。また、バイクのエンジン機構について勉強しており、不具合が生じたときに自分なりに判断して修理ができます。</p> <p>→詳細の記入があるが、他者からの評価についてはわからないため、評価はBが適切。</p> <p>②美術系に関心が高く何かを作るのが好きです。最近は木彫刻にチャレンジしています。</p> <p>→拘り具合や仕上がり具合についても聞き取りが必要。ものづくり経験があっても状況の詳細が得られない場合は、評価はCが適切。</p> <p>③小学校で椅子を制作、中学校で災害時用のライト制作をしました。</p> <p>→小中学生時代の授業レベルの制作では判断がつかず、記入も不要。</p>

◆印象の判断と根拠事例

「面談時のコミュニケーション力」で評価、記入した内容以外の、主に非言語的な人柄などの要素に焦点をあてて記入。「面談時のコミュニケーション力」に記入した内容と重複しないように注意。

- 客観的判断による評価…学生が話す事例からの推測だけではなく、面談時に直接感じた印象を、事例・根拠を踏まえて客観的に判断できる印象を記入。

例：「人当たりがよく、年長の顧客に受け入れられやすいと思う」→なぜそう思うのか事例や根拠を必ず記入。

- 「特によい」「よくない」評価を選択した場合…その理由も必ず記入。
- 「特によい」とする場合…「顧客や経営者に受け入れられやすい」「人あたりがよく、人の話をよく聞き、そつなく対応できる」といった営業向きと思える程度が必要。
- 「ビジネスチャレンジ」が第1希望または第2希望の場合…対外業務ができるかどうかの判断ができるような内容を記入。
- 社会人基礎力診断テストの結果…自己評価であり客観的評価ではないため、明確な事例・根拠が面談時に判断できた場合のみその内容を記入。

記入事例

良い例	好ましくない例
<p>①体育会系の学生であり、面談でも終始笑顔ではきはきと話していることから、顧客や経営者から受け入れられやすい印象を受けます。アルバイト経験からも高齢者との関わりが多いため、目上の人との会話も物怖じせずでき、どのような相手にもそつなく対応できると思われま</p> <p>②面談前後に自分から丁寧にお辞儀をして挨拶をしており、礼儀正しさが感じられる学生です。大学1年生の夏休みから続けているスーパーのレジのアルバイトの話からは、決められた物事を忠実にこなしていくことが好きであり、得意とする性格が窺えます。マニュアル通りに行うことでスムーズに作業できるところが自分の志向性と合っているという自覚があり、やりがいを感じている様子です。</p> <p>③決められたことをコツコツと作業することが得意な様子が窺えますが、自分で考えたり柔軟に臨機応変な対応をすることは難しいと思われま</p> <p>す。アルバイトにおいて、教わっていない業務を咄嗟に頼まれると対応に困ってしまったということが度々ある様子です。</p>	<p>①面談において、終始目線を合わすことはなく、表情も乏しく覇気もなかったです。 →良い面が見当たらないケースもあるが、「～であるが、〇〇の面も見られた。」といったように、少しでもアピールできる一面を見つけて記入。</p> <p>②人見知りをするタイプとの自覚があり、自身からの発信は少ないものの、面談ではこちらの質問に対して短い言葉で答えながらも、一生懸命に答えようとする様子がうかがえました。 →言語的な内容のため、「面談時のコミュ力判断事例」に記入すべき内容。</p> <p>③中学・高校時代はサッカー一部に所属し、高校では部長を務めていたとのことで、リーダーシップがある様子が窺えます。 →<u>面談での判断事例の記入が必ず必要</u>。 課外活動の様子からも判断できる場合は、客観的に判断できる事例を必ず入れたうえで補足として記入。役職についてただけではアピールにはならないので、その役職をどのように全うしたかを聞き取って記入。</p>

◆その他PR



・課外活動についてなど、他の項目（欄）に該当しない内容でプラスになることを記入。ただし、**他の項目（欄）に記入した内容と関連する場合は、いずれかの項目（欄）にまとめて記入**。



・紹介シートの各PR項目でタイトルを付けることを想定し、100字～150字程度でまとまりのある内容を記入。**複数の事柄について記入する場合は、段落を分けたうえでそれぞれの内容についてまとまりのある内容を記入**。

◆懸念点（学生申告内容）



学生に「**身体的な理由や健康上の理由で実習に直接的な影響があるケース以外は、原則配慮されません。**」と必ず伝える。そのうえで実習においてできないことの内容とその理由を確認する。



●面談シート記入事項…「配慮の有無の確認」について必ず選択し、配慮の必要がある場合はマッチングできる可能性を広げるため、その内容を「●●なので、●●できない（●●までならでき）」という書き方で具体的に記入。



※配慮されないケースもあることを伝えたと申告があったものについては、**すべて記入する（学生が配慮不要と言った場合でも記入）**。

※配慮が必要と思われる性格的な特徴がある場合や、留学生で日本語の使用に不安があるとカウンセラーが判断した場合は、この欄に記入する。



※懸念点がない場合は空欄とする（「特になし」などの記入は不要）。



※「**配慮の有無の確認**」について「未」を選択した場合（学生への確認が漏れてしまった場合）は、その旨をメールでも報告をする。

【配慮に値する症状の例】

腰痛、喘息、金属アレルギー、てんかん、精神的なことに関わることなど、実習への直接的な影響があるもの。マッチングの可能性を広げるためどの程度（どんな時に発症、対処など）の実習が可能か想定できるよう質問する。

【適切な記入例】

- ①数年前に腰を痛めたことがあり、同じ姿勢での立ち仕事は腰痛がひどくなり立っていられなくなるので、立ち仕事は1時間程度までしかできない。
- ②過去に〇〇の薬品を△△して××の状態になったことがあるので、〇〇の薬品を扱う業務はできない。
- ③てんかんの持病のため薬を服用しており、実習中に突然意識が無くなる可能性があるので、危険を伴うものづくり現場での業務はできない。

【不適切な記入例】

- ①手荒れがひどいので薬品を使用する作業では注意が必要である。
→どのような注意をすれば作業が可能なのか、もしくは薬品の使用は一切不可なのかなど、できること（どうすればできるのか）やできないことを具体的に聞き取り、記入する。
- ②過敏性腸症候群の持病があり、ストレスでトイレに行く回数が増える可能性がある。
→マッチング先によって解消できないケースのため、必要に応じて実習先に予め自ら相談するよう伝える。
- ③宿泊を希望しているが、卵アレルギーがあるので寮などで食事が提供される場合には配慮してほしい。
→実習に直接的な影響はないため、自身で注意するよう伝える。
- ④朝早く起きることが苦手なので、できるだけ自宅から近隣の職場にしてほしい。
- ⑤土日はアルバイトがあるので、土日の出勤がない企業にマッチングしてほしい。
→実習の目的から外れるような、個人の希望を優先するものは一切受け付けないと伝える。

◆ES①との相違

各領域希望順位と宿泊可否の選択について、学生自身によるES①の記載と一致しない場合は、面談シート内の「ES①との相違」の各列に「相違あり」と表示するように設定している。

面談結果に基づいて各領域希望順位と宿泊可否を選択後、「相違あり」と表示されている場合は、入力間違いが生じていないかを確認する。面談により変更となった場合は、「ES①の変更点」に記入する。

◆ES①変更点

- ・ エントリーシート①に記入してある領域希望順位の変更や「プログラミングスキル」「資格」「経験」の追加・訂正、宿泊可否の変更についてなど、エントリーシート①の記載内容に追加・変更がある場合は記入。
- ・ 変更の場合は、変更点がわかるように簡潔明瞭に記入。変更理由の詳細は不要。
- ・ 領域希望順位を変更した場合は、「領域希望順位」の順位も必ず変更後の順位を選択。

記入事例

- ①ものづくりを第1→第2希望に変更、設計・開発を第2→第1希望に変更。
- ②「宿泊可否」を「可」と回答していたが、確認したところ「不可」に変更。
- ③ES①提出後に普通自動車免許を取得。ES①に英検3級と記入したが、英検2級に訂正。
- ④実家からの通勤を不可に変更。

◆学生のPRポイント

- ・ 実習先企業への紹介シートに記載すべきと思われる項目を選択。
- ・ 実際に紹介シートを作成する際は、必ずしもこちらで選択された項目についてのみを記載するわけではない。紹介シートではPRを3つ記載するため、少なくとも3つはPR内容が記入できているかを確認するためのもの。
- ・ 領域希望理由は特定の興味・関心の内容になるため、マッチング前に作成する紹介シートに掲載する内容として使用できない。よって、各領域希望理由は選択できない。各領域希望理由以外で少なくとも3つのアピールが必要であることを踏まえて、他の項目の十分な聞き取りと記入が必要。